

体験入学会 模擬講義 要旨

8月2日

「自然の中の医薬品」 大橋 一慶 教授

古来人類は「くすり」として、動植物、さらには鉱物などを用いて病気やケガ等の治療を行っていました。ところが現在では、病気には医薬品を用いて治療を行うことが普通となっています。しかし、この医薬品の80%以上が自然の中から得られた化合物もしくはそれらの誘導体であることはあまり知られていません。このように、自然の中には生理活性を有する様々な化合物が存在することを理解し、少し「くすり」について考えてみましょう。

8月29日

「“痛い”と感じる神経のしくみ」 井上 敦子 教授

どうして「痛い」と感じるのでしょうか。「痛い」と感じるには、脳、脊髄や末梢神経系が、外界からの刺激を受け取り適切に処理、応答しています。神経系では、神経とかグリアという名前の細胞が、情報をうけとって伝えることによって働いています。このしくみを知って、痛みを抑える薬はそのしくみのどこにどのように働いて効いているのか考えてみましょう。このように、生体と薬の相互作用について考える学問を「薬理学」といいます。